

氏名	牛 嘯塵 (ギユウ ショウジン)
本籍	中華人民共和国
学位の種類	博士 (老年学)
学位の番号	博甲第 89 号
学位授与の日付	2019 年 3 月 18 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	中国都市部における要介護高齢者とその子ども介護者の介護サービスの利用希望に関する研究

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	白 澤 政 和
	(副査) 桜美林大学教授	長 田 久 雄
	桜美林大学教授	杉 澤 秀 博
	関西大学教授	黒 田 研 二

論文審査報告書

論文目次

I. 緒言	1
1. 高齢者と家族の介護サービスに関する利用希望を明らかにすることの必要性	1
2. 介護サービスの利用希望の関連要因に関する研究の到達点と課題	3
1) 研究の到達点	3
(1) 高齢者の利用希望	3
(2) 家族介護者の利用希望	4
(3) 高齢者と家族介護者の両者を対象とした研究	4
2) 検討が残された課題	5

3. 本研究の目的と意義.....	6
1) 本研究の目的.....	6
2) 本研究の意義.....	6
4. 研究方法.....	7
5. 倫理的配慮.....	7
II. 高齢者とその子ども介護者における介護サービスの利用希望に関連する要因：介護意識と介護サービス利用に対する態度という心理社会的要因に着目して（研究1）	8
1. 研究の目的.....	8
2. 研究方法.....	8
1) 調査対象.....	8
2) 調査方法.....	8
3) 測定項目.....	9
4) 統計解析.....	13
3. 結果.....	14
1) 高齢者と子ども介護者の特性.....	14
2) 高齢者の介護サービスの利用希望に関する要因.....	14
3) 子ども介護者の介護サービスの利用希望に関する要因.....	15
4. 考察.....	16
III. 高齢者と子ども介護者の介護サービスの利用希望の一致度に関する研究（研究2）	19
1. 研究の目的.....	19
2. 量的研究.....	20
1) 研究方法.....	20
(1) 調査対象.....	20
(2) 調査方法.....	20
(3) 測定項目.....	20
(4) 分析方法.....	22
2) 結果.....	23
(1) 高齢者と子ども介護者の特性.....	23
(2) 高齢者と子ども介護者の介護サービスの利用希望の一致度.....	23
(3) 高齢者と子ども介護者の介護サービスの利用希望の一致度に関連する要因.....	23
3) 考察.....	24
3. 質的研究.....	27
1) 目的.....	27
2) 研究方法.....	27
(1) 調査対象.....	27
(2) 調査方法.....	27

(3) 分析方法.....	27
3) 結果.....	28
(1) 分析対象者の概要.....	28
(2) 「家族介護」の利用希望が一致する理由.....	28
(3) 「在宅サービス利用」の利用希望が一致する理由.....	30
(4) 「施設介護」に対して一致して抵抗する理由.....	32
(5) 介護サービスの利用希望についての意思疎通.....	33
4) 考察.....	35
VIII. 総合的考察	38
1. 本研究の特徴と得られた知見の要約.....	38
1) 高齢者とその子ども介護者それぞれの介護サービスの利用希望に関連する要因.....	38
2) 高齢者とその子ども介護者の介護サービスの利用希望の一致度に関連する要因.....	38
2. 本研究から明らかにされた世代間関係の段階.....	39
3. 中国における介護サービスの推進への示唆.....	39
1) 在宅サービスの強化.....	39
2) 施設介護サービスの改善.....	40
3) 「孝道」意識の改革.....	40
4. 本研究の限界.....	41
謝辞	41
引用文献	42
図表	i
資料	ix

論文要旨

本論文は、中国の都市部における要介護高齢者とその子ども介護者の介護サービス利用の希望に関する研究である。その構成は、要介護高齢者とその子ども介護者の両者を対象に、高齢者とその子ども介護者それぞれの介護サービスの利用希望に関連する要因を量的調査で解明する研究1と、高齢者とその子ども介護者の介護サービス利用希望の一致度に関連する要因を量的・質的調査で解明する研究2に分かれている。

研究1では、中国山東省済南市Z区の60歳以上の要介護高齢者とその子ども介護者のペア97組を対象に調査を行っている。両者ともに、従属変数は在宅サービス利用希望の

有無とし、独立変数には、介護規範と介護サービスの利用態度という意識要因を位置づけ、分析を行っている。意識要因は、それぞれの対象者本人の意識だけでなく、相手の意識に対する対象者の評価、さらに直接収集した相手の意識で構成されている。分析の結果として、高齢者と子どもともに本人の意識要因が共通して在宅サービスの利用希望に大きく影響していることを明らかにした。さらに、意識要因の中では共通して「介護の社会化意識」が在宅サービスの利用希望に有意に影響しており、この意識が在宅サービスを受け入れる鍵になることを示した。子どもの在宅サービスの利用希望については、高齢者の意識要因も大きく影響していることも明らかにした。

研究2では、量的調査と質的調査から成っており、量的調査は研究1と同じ調査を利用して分析している。要介護高齢者と子ども介護者間での在宅サービスの利用希望の一致・不一致を従属変数とし、独立変数として高齢者と子ども介護者の連帯の強さ（交流的連帯、情緒的連帯、合意的連帯で評価）を位置づけ分析を行っている。交流的連帯については、コミュニケーションの頻度、情緒的連帯については、自分が相手に抱く親密度と相手が抱く親密度に対する認知で評価し、高齢者、子ども介護者それぞれ別々の要因として位置づけた。合意的連帯については、高齢者と子ども介護者間での介護の社会化意識と介護サービス利用に対する態度の一致度で評価した。結果として、高齢者側の要因については、子ども介護者とのコミュニケーションの頻度が高い、あるいは子ども介護者との親密度が低い高齢者では介護サービスの利用希望が一致する割合が有意に高く、子ども介護者側の要因については、高齢者との親密度が高いほど、介護サービスの利用希望が一致する割合が有意に高いことを示した。介護の社会化意識や介護サービス利用に対する態度が高齢者と子ども介護者とで一致する場合も、両者の介護サービスの利用希望が一致する割合が有意に高いことを明らかにした。

質的調査は、量的調査で利用希望が一致していた10組の家族を無作為に抽出し、それぞれに、「家族介護」「在宅サービスと家族介護の両方」あるいは「在宅サービス」の利用を希望する理由および介護サービスの利用希望について双方での意思疎通の有無について尋ね、主題分析を行った。結果として、家族介護で一致する場合、その一致には「孝道」の家族規範、家族での情緒の共有あるいは責任感が関係しており、在宅サービスの場合は自分と相手の介護負担への懸念が、介護サービスの利用の一致については伝統的な規範を暗黙のルールとして遵守することが影響していることを明らかにした。

以上の2つの研究から、中国の介護は親が要介護になると子どもが生活支援する段階にあり、在宅サービスの利用希望を拡大するには「孝道」の社会化が必要であることを提示した。

論文審査要旨

本論文は、国内外の研究のレビューも踏まえ、明確な課題設定のもとで、中国の都市部における要介護高齢者とその子ども介護者の介護サービスの利用希望に関する研究を行っている。高齢者とその子ども介護者をペアにしての分析が本論文の特徴があり、そこにオリジナリティがある。さらに分析に対する深い考察がなされ、理論的にも水準の高い論文となっている。また、量的・質的研究を組み合わせた混合研究法を用いているが、質的研究は量的研究を補完するという位置づけを明確にしている点が評価できる。それによって、要介護高齢者と子ども介護者の間での在宅サービスの利用希望の一致度には、中国の伝統的な規範が影響していることを明らかにし、介護サービスの利用希望の拡大には「孝道」の社会化が必要であることを提示できている。

以上を示してあるように、本論文は学位（老年学）に相当すると、審査員全員一致で判定した。

口頭審査要旨

30分の発表時間通りに、本論文の内容について、研究背景、先行研究の到達点と課題、本研究の目的と意義、研究1の目的・調査方法・分析方法・結果・考察、研究2の目的・分析方法・結果・考察、総合考察の順で説明した。短い時間内で、極めて明瞭に全体像を提示していたといえる。続いて、審査員等からの質問やコメントに対して的確に答えていた。以上から、今後自立した研究者として十分に活動できる能力を有しているものと推察できた。

以上から、審査委員全員一致で、本論文が博士（老年学）の学位に値すると判定した。